

3 産 業

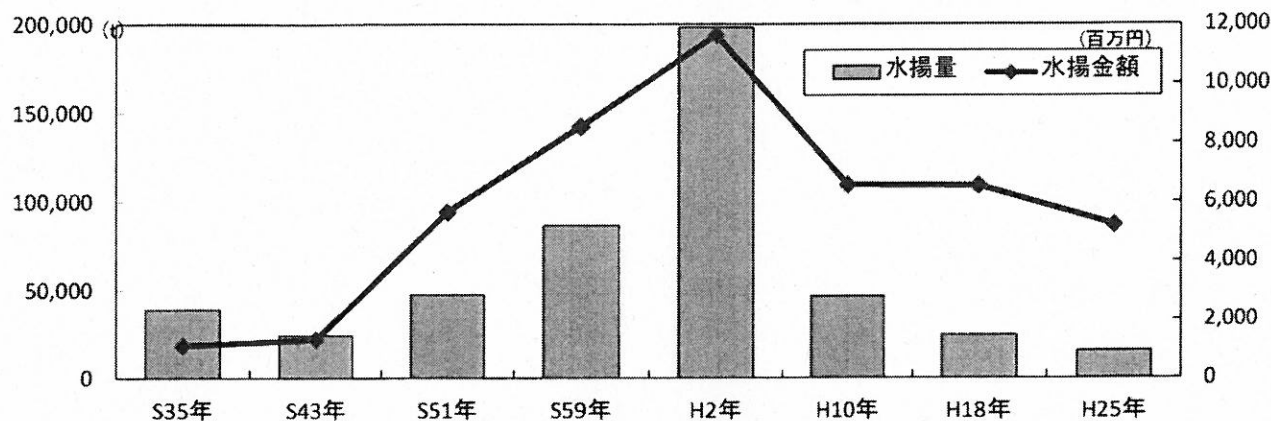
(1) 水 産 業

① 浜田漁港の水揚量と水揚金額の推移

(単位:t、百万円)

	昭和35年	昭和43年	昭和51年	昭和59年	平成2年	平成10年	平成18年	平成25年
水揚量	39,043	24,140	47,446	86,805	198,104	46,478	24,455	15,535
水揚金額	1,102	1,305	5,649	8,543	11,631	6,562	6,542	5,221

(浜田市水産業振興協会調べ)



② 魚種別水揚量の推移

(単位:t)

	昭和35年	昭和43年	昭和51年	昭和59年	平成2年	平成10年	平成18年	平成25年
いわし類	6,230	1,906	17,163	65,279	171,856	8,408	701	630
あじ	20,147	5,214	670	4,081	9,212	24,542	7,925	4,376
さば	1,708	4,721	14,573	5,746	4,029	6,322	5,369	2,231
かれい	1,872	1,813	2,230	1,827	2,513	715	1,355	858
いか類	997	1,887	5,841	4,374	4,514	2,266	1,964	1,827
貝類	41	59	79	154	175	136	75	48
藻類	3	13	33	52	79	26	18	14
その他	8,045	8,527	6,857	5,292	5,726	4,063	7,048	5,551
合 計	39,043	24,140	47,446	86,805	198,104	46,478	24,455	15,535

※その他の魚種：ぶり、ひらめ、ふぐ、あなご他

(浜田市水産業振興協会調べ)

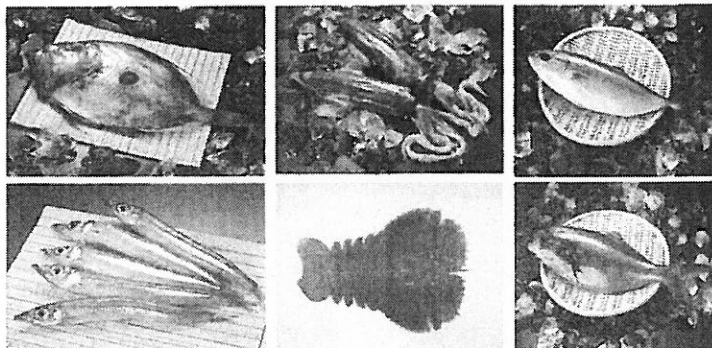
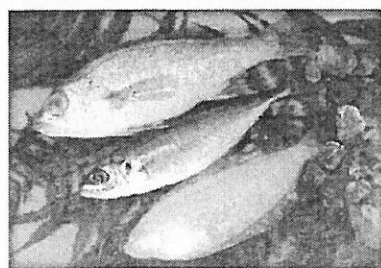
平成25年の水揚量は15,535トン、水揚金額は52億2,142万円であり、前年に比べ水揚量は5,128トン、水揚金額は4億9,306万円の減となりました。

水産業を取り巻く環境は、資源の枯渇、担い手の高齢化や後継者不足など非常に厳しい状況にありますが、こうした現状を改善するために引き続き栽培漁業の推進、漁場整備などによる漁業資源の確保、県外船の誘致及び沖合底曳網漁船、旋網漁船の存続に向けたリシップ等による漁業構造改革の取組みなどを行い、水産業の振興を図ります。

また、魚価の向上を図るため、どんちっちブランドの推進・定着や新たな魚のブランド化などに取り組んでいます。

山陰浜田港 鮮魚

どんちっち三魚(アジ・ノドグロ・カレイ)



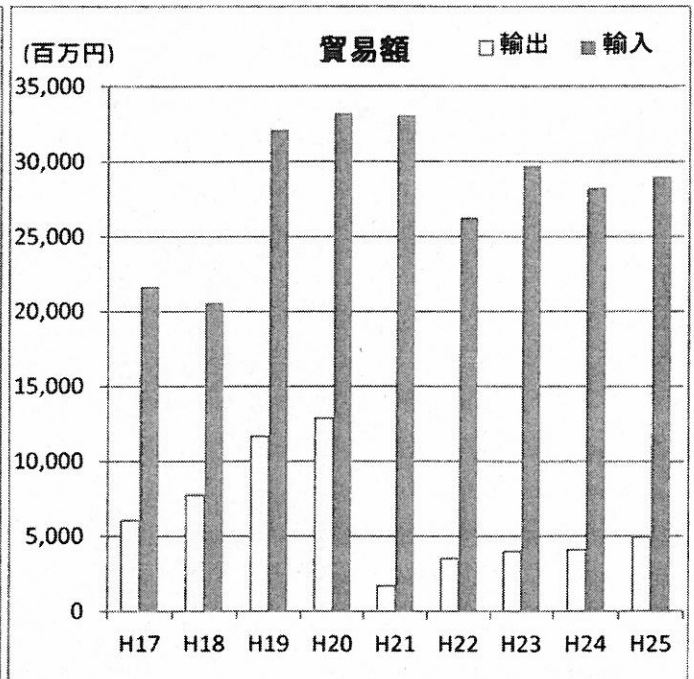
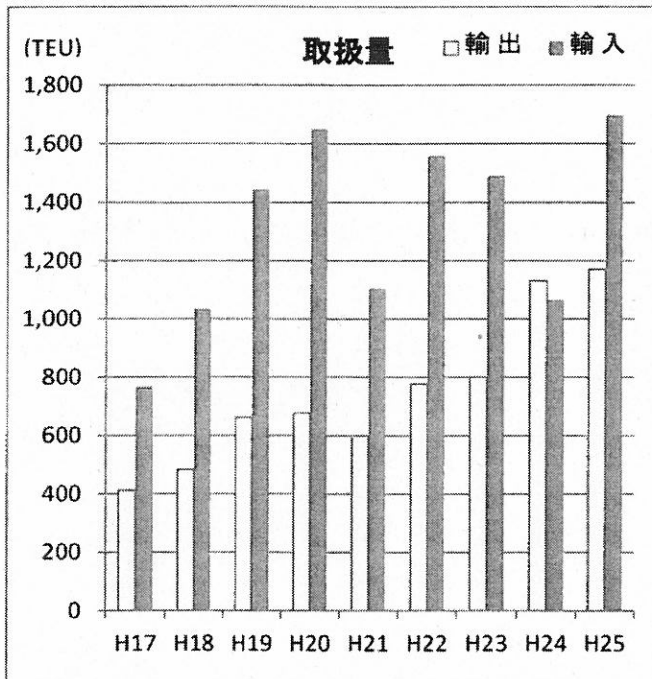
(2) 浜田港の活用

①「浜田港国際定期コンテナ航路取扱量」及び「浜田税関支署管内貿易額」の推移

	取扱量 (単位: TEU)			貿易額 (単位: 千円)		
	輸出	輸入	合計	輸出額	輸入額	合計
平成17年度	412	767	1,179	6,050,612	21,676,315	27,726,927
平成18年度	484	1,033	1,517	7,730,838	20,577,117	28,307,955
平成19年度	662	1,444	2,106	11,647,005	32,128,959	43,775,964
平成20年度	678	1,649	2,327	12,867,376	33,240,024	46,107,400
平成21年度	600	1,106	1,706	1,692,163	33,085,735	34,777,898
平成22年度	777	1,559	2,336	3,541,450	26,294,478	29,835,928
平成23年度	801	1,491	2,292	3,989,997	29,718,630	33,708,627
平成24年度	1,132	1,067	2,199	4,123,858	28,283,650	32,407,508
平成25年度	1,171	1,698	2,869	4,959,698	29,016,886	33,976,584

※取扱量：1TEUは20フィートコンテナ1本に相当し、40フィートコンテナ1本は2TEUとなる

※貿易額の推移：財務省貿易統計及び浜田税関支署管内貿易概況から抜粋



浜田税関支署管内(浜田港・三隅港他)の平成25年の貿易総額は339億7700万円となり、前年実績を15億6,900万円上回りました。

浜田港における主な貨物は、輸出はロシア向けの中古自動車、輸入はカナダからの木材が大きなシェアを占めています。三隅港では石炭の輸入のみ行われています。

また、釜山港との国際定期コンテナ航路のコンテナ貨物の取扱量が2,869TEUとなり、平成13年の航路就航以来、最高の取扱量となりました。主な貨物は、輸出は韓国向けの木材、輸入は韓国・タイからのポリエチレンとなっています。



平成25年4月に完成した福井上屋

(参考)平成25年
◆輸出入上位品目◆
(単位:百万円)

<輸出>
自動車 4,011
木材 156
パルプ及び古紙 141

<輸入>
石炭 23,424
木材 1,746
無機化合物 880
(浜田税関支署管内貿易概況より)

(3) 農 業

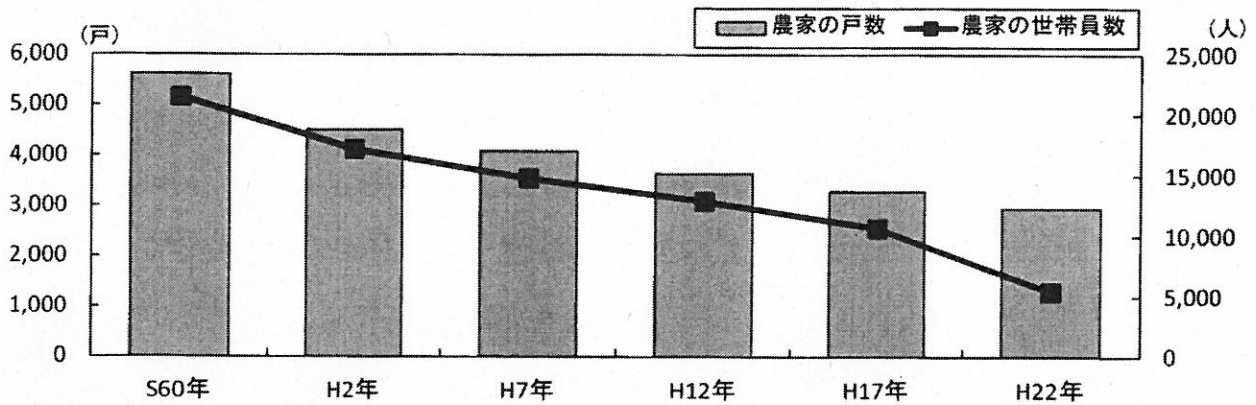
①農家の戸数、世帯員数の推移

(単位:戸、人)

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
浜 田	農家の戸数	2,052	1,438	1,249	1,083	989	911
	農家の世帯員数	8,231	5,901	4,834	4,099	3,278	1,185
金 城	農家の戸数	1,023	965	907	858	786	691
	農家の世帯員数	4,060	3,779	3,464	3,186	2,722	1,705
旭	農家の戸数	847	757	715	657	600	554
	農家の世帯員数	2,990	2,631	2,319	2,096	1,831	1,165
弥 栄	農家の戸数	485	434	406	367	320	284
	農家の世帯員数	1,659	1,464	1,336	1,181	945	576
三 隅	農家の戸数	1,208	916	813	685	598	516
	農家の世帯員数	4,554	3,401	2,835	2,328	1,895	799
合 計	農家の戸数	5,615	4,510	4,090	3,650	3,293	2,956
	農家の世帯員数	21,494	17,176	14,788	12,890	10,671	5,430

※平成22年の農家の世帯員数は、販売農家のみ

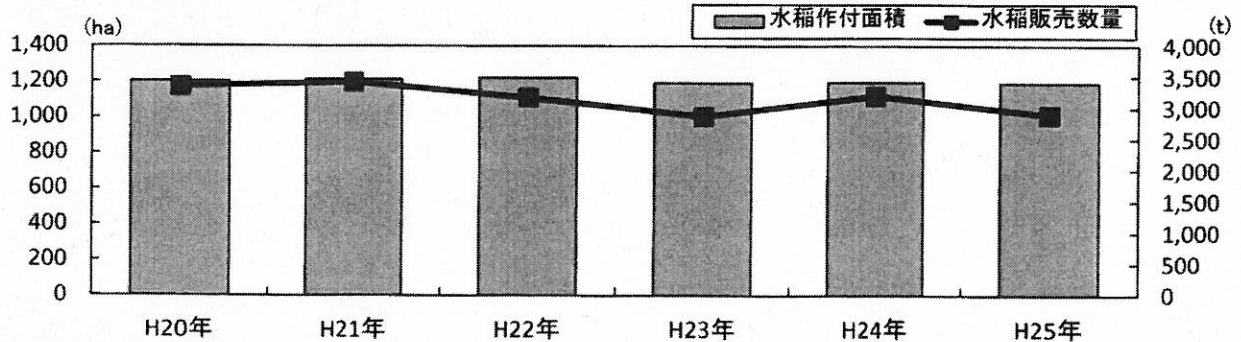
(農林業センサス調べ)



②水稲作付面積、水稲販売数量の推移

(単位:ha、t)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
水稲作付面積	1,202	1,214	1,221	1,193	1,198	1,192
水稲販売数量	3,349	3,421	3,173	2,872	3,200	2,894



浜田市は、兼業農家による水田農業が中心です。基幹作物である水稲については、全国的に米消費が減少傾向で推移する中、米価低迷、生産調整による作付面積の減少及び肥料等の高騰による生産コストの増加などのため、農家所得は低下しているとともに、農業者の高齢化もあいまって担い手の不足が課題となっております。

また、気象条件(温暖化含む)や立地条件などによる収量・品質・規格の統一を図るため、品種の転換を進めていますが、コシヒカリの栽培割合(市全体コシヒカリ79%、きぬむすめ16%)と依然として高い現状となっています。平地部の浜田、三隅のきぬむすめの栽培割合は、それぞれ21%、27%となっています。

また、地域の特徴を活かした特産果樹や有機野菜の栽培にも力を入れています。



(4) 商 業

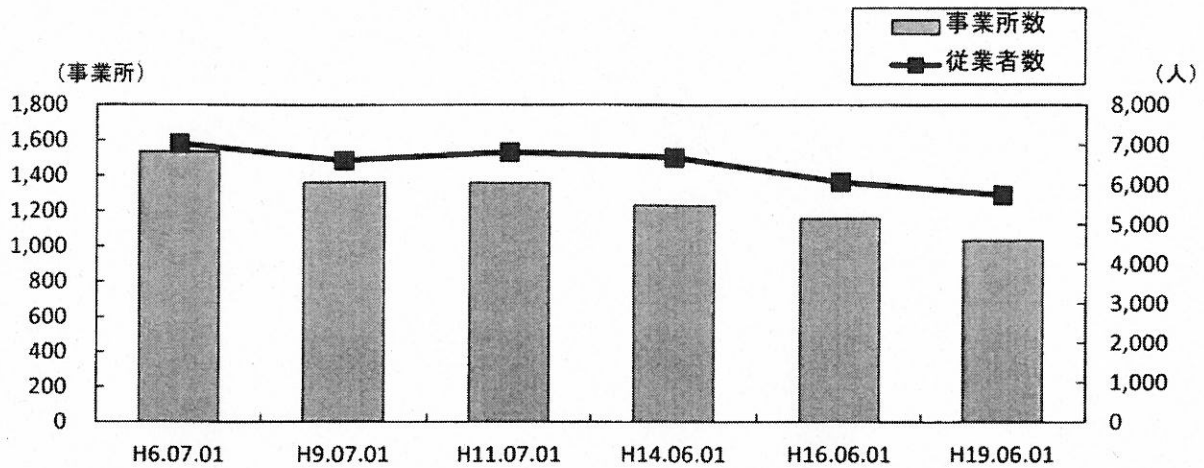
①商店数、従事者数及び商品販売額等の推移

(単位:事業所、人、百万円)

	平成6年	平成9年	平成11年	平成14年	平成16年	平成19年
事業所数	1,537	1,363	1,361	1,233	1,159	1,035
従業者数	7,032	6,609	6,810	6,680	6,073	5,741
年間商品販売額	196,380	182,558	171,033	155,497	149,499	130,471

※平成16年以前は合併前旧市町村の数値の合計

(商業統計調査より)



(5) 工 業

①工業事業所数、従事者数及び製造品出荷額等の推移

(単位:事業所、人、百万円)

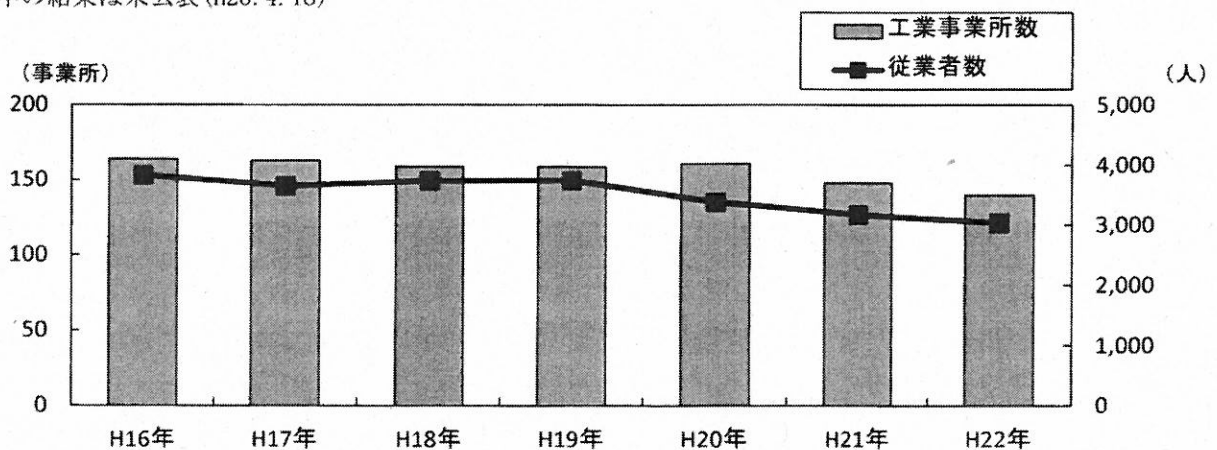
	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
工業事業所数	164	163	159	159	161	148	140
従業者数	3,829	3,647	3,736	3,739	3,379	3,169	3,036
製造品出荷額等	65,998	65,177	67,780	71,955	61,176	48,951	55,794

※平成16年以前は合併前旧市町村の数値の合計

(工業統計調査【調査日12月31日】より)

平成23年は平成24年経済センサス-活動調査の実施により中止

平成24年の結果は未公表(H26. 4. 18)



市内商業地は、平成3年12月の浜田自動車道の開通後、郊外型大型店舗やコンビニエンスストア等の進出、後継者不足等により以前のような賑わいがなくなり、中心市街地の魅力が薄れ、空き店舗の増加や商業機能の衰退が進んでいる現状にあります。今後は、市街地の都市機能の集積を重点的に進めることによりコンパクトで賑わいあふれるまちづくりをすすめていくことが必要です。

また、浜田市には全国に誇れる水産加工品や工業製品も数多くありますが、若年労働者の県外流出による後継者不足やIT活用等の戦略的な情報発信不足により販路の拡大が大きく見込めない現状となっており、後継者の指導、経営感覚の醸成、マーケティング等の人材育成が課題となっています。